

山本伸樹様

こちらは
奈良・町家の芸術祭 HANARART 2013 実行委員会 実行委員長の野村ヨシノリと申します。

先日はお電話で「金魚電話」についてのお問い合わせ、ご意見を頂きありがとうございます。

すぐに参観しなければならぬ所遅くなってしまい申し訳ございません。

私どもが今回開催いたしました、
奈良・町家の芸術祭 HANARART 2013
は、奈良県における現代美術と地域の振興を目的に 2011 年に第 1 回を開催し、今年で 3 回目を迎えています。

本年は奈良県下 8 エリアを 1 つずつフリー方式で開催して行く形式をとり、
9 月初旬から 11 月末まで約 3 ヶ月間、本イベントを行ってきました。

さて件の「金魚電話」は、
その中の郡山城南町エリア（大和郡山市）の【えあ】部門の中で
「金魚の会」というアーティスト集団によって発表、出展された作品です。

【えあ】部門というのは、アーティストインレジデンス (Artist In Residence) の頭文字をとった言葉で、
あるアーティスト（達）がその町にしばらく滞在しながら、滞在先の町の住民や来場者とふれあい、コミュニケーションをとる中で、
1 つの作品（プロジェクト）をたちあげ具体化させ制作し発表するというものです。
これは郡山のみならず、全 8 エリアでそれぞれ別の作家（達）が【えあ】を行ないました。

郡山城南町エリアの【えあ】の作家：

「金魚の会」のメンバー達は、美術家をはじめ社会人も加わり構成されている一つのユニットです。
彼らは今回、9 月半ばから郡山市内の或る家を借りて住み込み、一つのコンセプトのもと、
「金魚電話」だけでなく色々な作品を制作し、柳町商店街というストリート沿いにそれらを野外展示しました。
タペストリーや横断幕の形をとった絵画作品が中心ですが、その中の一つに「金魚電話」があります。
「金魚電話」は、これは既にご存知のように、電話ボックスの中に水をため、金魚を 100 匹以上泳がせ、それを金魚鉢のよう
に見立てて鑑賞するという作品ですが、単なる鑑賞装置ではありません。地元産の金魚の手配はもちろんのこと、水槽本体の移動、
設置、朝夕の水換え、各種メンテナンス金魚の世話、来場者への対応、金魚の返却、金魚に関わる全てを含めた過程全体を作品
として柳町商店街に野外展示されました。

この「金魚電話」が、
山本様が以前に発表された作品（初出：1999 年いわきの美術 境界を超えて—立体表現の拡がり part1 /いわき市立美術館（福島）、
最近では今年 4 月に梁川美術館での個展で発表されていますね）と制作方法や見せ方がほぼ同じであるという事で
著作権侵害にあたるのではないかとというご意見かと受け取っております。

確かに電話ボックスを使って、金魚が回遊する所を見せるというところまでは同じなんです、
その奥にある作品コンセプトや地域イベントのもとでの作者達が掲げた目的には違いがあるのではないかと考えております。
山本様に直接お目にかかりお話をうかがった訳でもなく、また作品を実際に拝見した訳ではないので、
両者のコンセプトの差異を具体的には申し上げられないのですが…

今回の金魚の会のメンバー達が訴えたかったことを一言で言うと、「生命倫理の再考」だと捉えています。
金魚だけではなくもう少し広い意味で、人間も含めた生物（あるいは生命といってもいいかもしれません）に対する倫理観を
金魚の存在を通して一般の方々にもう一度考えてもらいたいというのが、彼らの意図する所でした。

今回彼らが発表することになった町：大和郡山市は、主に金魚産業によって市の経済基盤が支えられている町です。
そこに住む人達やそこで育つ子ども達にとって、金魚はもっとも身近な愛すべき生物であると同時に、
自分たちの生活を支えてくれる経済資源でもあるのです。
更に近年金魚は単なる鑑賞用ペットとしての需要は少なくなり、
市や漁業関係者にとって、大型魚類の為の【餌】として養殖出荷されることの産業収益の方が大きくなっているという現実があります。
とにかく多くの市民にとって、金魚は市民としてのプライドやアイデンティティにも大きな影響力を持ち、
市政にとっても金魚産業は無くしてはならない税収源になっている訳です。

しかし、そもそも金魚は、人間の欲望が創り出した不自然な生物でもあります。
もともとの単なる【鮎】に品種改良を重ね、より色の派手な、形態がいびつで面白いものに作り変えて行ったものです。

そんな金魚の存在、金魚の不自然さ、金魚の短い一生（時間）を、
金魚に頼って生きている郡山の地でもう一度見つめてみようとしたのが、今回の「金魚の会」のメンバーの目的なのです。
そしてそれはとりもなおさず、人間の本来あるべき姿、存在、生命の尊厳という更に大きな問題をも問うことになっています。
こういった考えを表現する上で、このプロジェクトの中で「金魚電話」は無くしてはならない重要な位置づけにありました。
そして、地域の振興や活性化、多様な価値観を創出していくことを目的にしている HANARART の理念にも、
彼等のコンセプトは強くフィットするものでもあったのです。

こういう理由で、実行委員会本部としては、
「金魚の会」が野外展示するプロジェクト内容（その中の1つに「金魚電話」が入っている）を事前に伺った折、
「金魚電話」は、上記のコンセプトを表現する上で説得力のあるものになるので、
積極的に出展して欲しいという態度を取ってきました。
以前の山本様との間のいきさつもある程度聞き及んではおりましたが、
彼等の作品には、盗用などでは決してなくオリジナリティーがしっかり担保されており、
金魚の町大和郡山で発表してもらおう意義がおおいにあると判断したからです。

アート界では、
よく似た方法や表現形式が、その同時代性がそうさせるのか、別の作家達にしばしば同時に発生し、同時に世間に広がる事があ
ります。
今回も「金魚電話」の前身である「テレホンボックス金魚、通称テレ金」も山本様の作品を下敷きにしたのでも真似したのでもなく、
偶然京都の学生たちの間に生まれた発想から制作されたものであり、制作過程も独自に設計し施工業者に発注し完成させたもの
であると、そこに関わってきた関係者から直接聞き取りました。
実行委員会側としても、「金魚電話」はコンセプトや目的に関して全く違う所から発生したものであって、盗用したものではな
いと捉えております。

そしてたとえ最初によく似た作品や作風であっても、それらがある程度時間をかけて成長する過程で、
徐々にその差異が明らかになり、独自のものに変化していくものだと考えております。
今回私共が関わった「金魚電話」も、もし今後発表する機会が多くなればなるほど、
その目的に沿い、それぞれが違う進化をたどるのではないかと考えております。

上記の理由や考えから、
借越ながら、今回の彼等の作品は山本様の作品に対して
著作権侵害にあたるものではないと考えています。

また、
若い作家達が独自に発想し（そこには意図的な物まねや盗用が無いという条件ですが）、
それを引き続き発表を重ねることに彼ら自身が意義を見だし、
彼らのコンセプトや方針が地域にとって有用であると見込まれるのであれば、
私共は彼らの活動を抑制するのではなく、更に成長することに協力支援していきたいという考えでおります。

大変勝手な言い分に関こえるかも知れませんが、
山本様の作品にもその作品が生まれ発表される必然性があったのと同じように、
金魚部が京都という土地で生んだ作品にも必然性があり、
金魚の会が金魚部の活動を引き継ぎ、今回は奈良県大和郡山市でこの作品を発表したことに必然性があったと
考えていただくことはできないでしょうか？

繰り返しになりますが、
「金魚の会」の活動と「金魚電話」は、
山本様のご活動や作品を誹謗中傷することを目的にしているのでもなければ、盗用したものでもありません。
さらには営利目的で発表されたものでも全くありません。
(会期中来場者には無料で公開しましたし、作家達には少額の制作補助金が HANARART 実行委員会から支払われただけです。)

どうか上記の事情を鑑み、
今回の私共のイベントやそこで発表された作品に対して、
なにとぞ、好意的建設的にご理解、ご了承いただきますよう、切にお願い申し上げます。

回答が遅くなりましたことをお詫びするとともに、
山本様の今後の益々のご活躍を心より祈念しております。

どうぞ今後とも、よろしくおつきあいください。

年の瀬ご多忙中、お体には十分ご自愛くださいませ。

奈良・町家の芸術祭 HANARART 2013 実行委員会 実行委員長
野村ヨシノリ

奈良・町家の芸術祭
HANARART 2013 実行委員会
実行委員長
野村ヨシノリ

〒630-8266
奈良市花芝町 8-3 大和ビル 3 階

TEL : 090-9215-6847
E-mail : info_hanarart@yahoo.co.jp
個人アドレス : contact@outofplace.jp
公式ホームページ : <http://hanarart.main.jp/>

twitter @HANARART
facebook : <http://www.facebook.com/hanarart>

